

# 第2回金ヶ崎周辺整備構想策定委員会

<資料>

平成23年10月24日

# 第1回委員会の確認事項

## 市民WS提言書の確認

- 新施設整備・回遊性等に関するハード提案とイベント・交通アクセス等に関するソフト提案
- 4つの課題(コンセプト・ターゲット、整備の進め方、整備・運営戦略、集客戦略)
- 18項目の提言(既存ストックの活用、新たな集客整備、物語性の導入、市民参加型など)

## 市民の金ヶ崎周辺に対する夢や希望、期待感の確認

### 上位計画の確認

- 第6次敦賀市総合計画
- 都市計画マスタープラン
- 中心市街地活性化基本計画

### 金ヶ崎周辺整備構想の考え方と方向性

- 「鉄道」と「港」の歴史性を考慮
- ソフト事業の導入検討(人道の港などの物語性)
- 既存ストック状況の確認
- 民間イベントや記念事業等による市民の機運盛り上げ

## 敦賀の歴史、物語、既存ストック等の資源を活用した市民参加によるまちづくり

### 全体コンセプト

○金ヶ崎周辺整備構想の対象区域全体で目指すべきまちの姿を「全体コンセプト」として以下のとおり設定します。

## 鉄道の夜明けと人道の港 敦賀

～敦賀ノスタルジアムの創出～

### ノスタルジアム

- ノスタルジー** 明治後期～昭和初期の敦賀港の雰囲気
- ミュージアム** 港と鉄道の歴史を知り伝える場所

### 3つのテーマ

○全体コンセプトの下で目標とする市街地像を「3つのテーマ」として以下に示します。

○市民と行政が協働し、郷土史意識の醸成や誇りを持つことのできるエリア

○民間と行政が協働し、未来に繋がる賑わい交流拠点となるエリア

○市民が憩い・交流・賑わいを創出して、来訪者をもてなすエリア

## 市民ワークショップでのキーワード

### (I) ターゲット

市民の憩いの場

観光客

### (II) 整備の進め方

地域資源の保全・活用

新しい街並み・景観づくり

エリア内外の回遊性

### (III) 整備・運営戦略

ソフト戦略と物語性導入

資金投下と段階的整備

役割分担と連携

マネジメント

### (IV) 集客戦略

イベント・PR

交通アクセス・おもてなし

食・地元物産の活用

## 第1回委員会での各委員からの主なキーワード

- ①賑やかな居心地の良い場所に、10年後ではなく**3年後**に
- ②**130周年**委員会等民間イベントとの連携、**鉄道をコンセプト**に整備
- ③全国**赤レンガ**サミットとの連携、**全体整備コンセプト**を最終成果、市民シンポジウムの大切さ
- ④時代設定と**物語性**導入の大切さ、**赤レンガ倉庫**と広場の動線強化
- ⑤昔のように**赤レンガ倉庫**にレストラン、**赤レンガ倉庫**の中を見られるように
- ⑥桜の増植、**歴史的資産**を集約して整備、新港整備との連携
- ⑦**鉄道と港がセット**であることが資産(敦賀の**オンリーワン**の大切さ)、**係船による景観アップ**
- ⑧**氣比神宮**から先への**回遊性**、月見御殿を意識した金ヶ崎周遊階段の設置、**エリア内の回遊性**
- ⑨**市民一人一人が主体性と誇り**を持って取り組める場
- ⑩**H26舞若道開通**を短期での目標年度に、「宿泊型」と「街歩き型」、関西地域の若い女性ターゲット、**イルミネーション、クルージング**
- ⑪**記念イベント**との連携、当委員会を活かした国、県、市との密な調整
- ⑫**段階的整備**の必要性、市民の**アイデンティティ**醸成、構想策定のプロセスの中で市民周知、**先進事業**の抽出
- ⑬ポートフォーラム(港の公開広場)、国際性、ミュージアム性、**人の営み**

「港に居心地の良い溜まり場がほしい!」という、皆さん共通の思いを確認しました。

# 委員会の全体フロー

議論テーマ: 金ヶ崎周辺の将来像、ビジョンを議論する。

議論する要素

(II) 整備の進め方

既存資源の  
活用方策

- 赤レンガ倉庫
- ランプ小屋
- 港線(現在休止中)
- 旧敦賀港駅舎...etc

オープンスペースの  
活用方策

- 交流拠点用地(県有地)
- 市有地
- 民有地

...etc

(I)、(III)、(IV)を関連させながら  
(II)を中心に議論

(I) コンセプト・ターゲット

(III) 整備・運営戦略

(IV) 集客戦略

## 第1回: 委員会の目的と進め方

- 委員会設置要綱
- 市民ワークショップ提言内容
- 委員会の目的・整備構想策定の必要性
- 当委員会での重点的な議論テーマの選定

## 第2回: 既存ストック活用方策

- 今ある資源の有効活用
- 全国各地の事例紹介
- ソフト施策との連携
- 回遊性の向上

## 第3回: オープンスペースの活用方策

- オープンスペースの活用イメージ
- にぎわい施設提案
- 民間活力導入方策
- 敦賀高校生徒による提案

## 第4回: 整備構想策定まとめ

- 実現方策の検討(事業スキーム/役割分担/ハード・ソフト)
- 段階的整備(場所/時間軸/季節感)
- 事業化スケジュール(短期/中期/長期)
- イメージパース

## 本日議論する項目

### ○今ある資源の有効活用

①赤レンガ倉庫



②ランプ小屋



③港線 (現在休止中)



### ○ソフト施策との連携

サマーフェスティバル (千人千灯)



手形による広場づくり



ミニライブや  
アートイベント

### ○回遊性の向上

広場の積極活用など

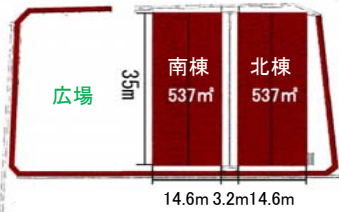


ウォーキングイベントなど



# 既存ストック活用方策 ～赤レンガ倉庫～

## 赤レンガ倉庫



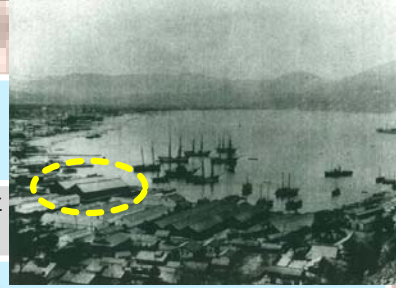
商業地域 容積率400% 建ぺい率80%  
臨港地区 準防火地域

敷置港は、明治32年(1899)に外国貿易港に指定された。この倉庫は当時(ニューヨーク)スタンダード石油会社が明治38年に石油の輸入を開始したときに石油貯蔵庫として建設された。2棟のイギリス風の煉瓦造平屋建の倉庫は、外国人技師の設計と伝えられている。  
この倉庫は、第二次世界大戦中は軍の被服庫として、その後は海産物の貯蔵庫として使用されてきたが、平成15年に敦賀市に寄贈された。  
内部には、柱型を出さずに、桁行方向の内壁には1から65までの石油缶整理用の数字が残されている。  
県内では最大の煉瓦造の建物は、敦賀港の繁栄の時代に今に伝える遺構の一つで市民からは「赤レンガ倉庫」として親しまれている。  
敦賀市・社 敦賀観光協会



## 歴史のおさらい

明治38年 (1905)	紐育スタンダード石油会社倉庫建設 石油輸入開始
明治42年 (1909)	敦賀港第1期修築工事による倉庫前面埋立
大正2年 (1921)	第2期修築工事による臨港線の布設(昭和7年(1932)まで)
昭和15年 (1940)	紐育スタンダード石油会社撤退
	戦時中は日本軍が備品庫として利用
昭和26年 (1951)	(株)高橋商店(現・ヤマトタカハシ(株))が購入
昭和56年 (1981)	屋根修復工事
昭和58年 (1983)	屋根葺替工事
平成15年 (2003)	敦賀市に譲渡
平成16年 (2004)	「敦賀市にぎわい創出拠点整備基礎調査」
平成20年 (2008)	「敦賀市赤レンガ倉庫活用基本構想」
平成21年 (2009)	北棟、南棟、煉瓦塀が国の登録有形文化財に登録 倉庫前に芝生広場を整備
平成22年 (2010)	「敦賀港芸術村構想」



## ワークショップでの意見

### ○食関連

- ・赤レンガレストランの復活
- ・赤レンガ倉庫を集客施設として利用(ライブハウス、オルゴール館、結婚式場、特大ビアホール、ジオラマ展示、カフェ、鉄道や港に関するテーマ施設等)

### ○その他

- ・多目的スペースとして利用
- ・芭蕉関連記念館
- ・特産物の店
- ・ギフトショップ

### ○課題

- ・赤レンガ倉庫の立地が中途半端
- ・赤レンガ倉庫は窓も少なく使いにくいので景観要素として活用
- ・耐震補強が課題
- ・駐車場がない

## 赤レンガ倉庫活用の基本方針(案)

### 赤レンガ倉庫の特性

- ・赤レンガ建築でありシンボル性が高い
- ・敦賀市民に親しまれている
- ・港の歴史を示す文化財である
- ・耐震補強など現時点では制約がある

### 活用の基本方針(案)

- 港都文化を軸とした交流機能とにぎわい創出機能の導入
- 地元敦賀市民の利活用による誇りと愛着のさらなる醸成
- 既存の取組との連携を図り、活用可能な事から着手する

# 既存ストック活用方策 ～赤レンガ倉庫～

## 活用方策案 (既存構想の案の紹介)

### 「敦賀市にぎわい創出拠点整備基礎調査 (H16)」の施設利用計画

**飲食施設** (喫茶店・レストラン)  
**物販施設** (テナント、チャレンジショップ、地元セレクトショップなど)  
 港の歴史にふれあいながら気軽に飲食や買い物を楽しめる飲食施設や物販施設を形成する。

**催事施設 (ミニホール)**  
 地域イベントなどに対応できるミニホールを形成する。港文化の発信や地域活動の拠点として活用を図る。

**オープントラス**  
**駐車場**

**移動販売車、フリーマーケットスペース**  
 移動販売による食販やフリーマーケットの開催スペースとして市民のコミュニティ、ビジネスチャンスの場として活用する。

**展示施設+テラ**  
 往時を偲ばせる資料や文化交流を促させるアートギャラリーなどを形成する。

**制作施設 (ワーク工房) 又は展示施設 運営サポート施設 (事務局)**  
 港都文化に関する創作活動や展示機能があるスタジオやギャラリーを形成する。また、施設の運営管理を行う事務局機能も設置することが望ましい。

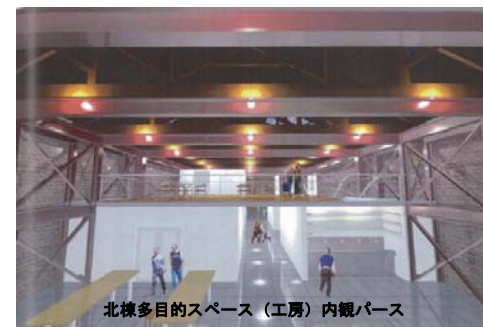
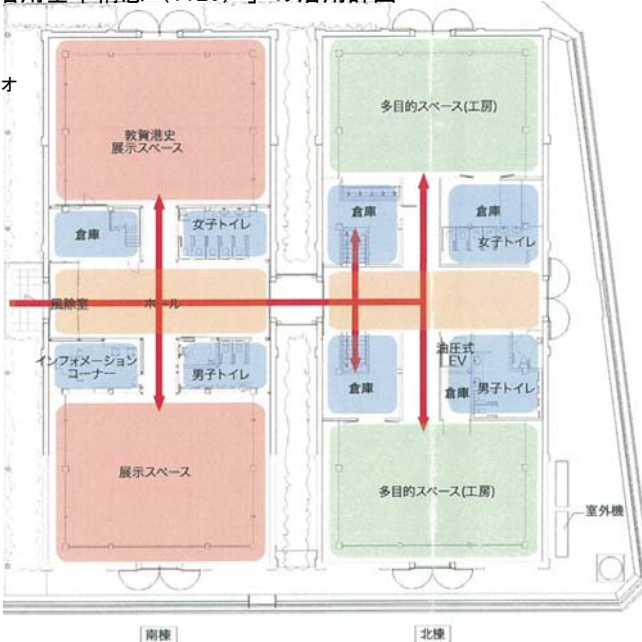
### 「赤レンガ倉庫活用基本構想 (H20)」の活用計画

●南棟  
 エントランス (インフォメーション、事務室) と敦賀港史を中心とした展示スペースを設ける

●北棟  
 多目的スペースや倉庫等を配置

●南北棟の間  
 両棟間のスペースを活かしたオープンカフェ、休憩所など

<参考>  
 ちなみに、このように活用しようとすると、耐震改修と内装を含めて2棟で約6億円 (4年間) かかる試算です。



## WS意見を踏まえた活用方策案の例

### 金ヶ崎周辺 ジオラマカフェ

赤レンガ倉庫内に金ヶ崎周辺の往時の様子をジオラマで復元するとともに、飲食・休憩機能を導入する



<参考>

耐震改修	⇒行政
内装	⇒民間
運営管理	⇒民間

※これらについては、市民、民間等の盛り上がりに応じて検討していく内容になります。



## すぐにでもできる活用方策の案

平成21年度に整備された広場の活用  
 ⇒音楽ライブ等の開催による活性化が提案されている敦賀港芸術村構想の取組と連携し、赤レンガ館横の広場を活用した市民が楽しめるイベントの開催など



# 既存ストック活用方策 ～ランプ小屋～

## ランプ小屋



## 歴史のおさらい

敦賀港駅ランプ小屋  
 完成 一八八二年(明治十五年)  
 建設/鉄道省 敦賀通平庫庫 敦賀市市街一丁目  
 間口7.7m 奥行4.1m

敦賀港駅は一八八二年(明治十五年)金ヶ崎駅として出発した。敦賀は日本海側で一番早く鉄道が通った町であり、港の荷物を直接取り扱うのが金ヶ崎駅だった。その後、一九二二年(明治四十五年)新橋と金ヶ崎間に欧亜国際連絡列車が週三往復するようになり、国際港敦賀は多くの人と荷物で賑わった。当時の建物がほとんどなくなってしまったなかで残ったのが煉瓦造りの「ランプ小屋」だ。列車を走らせる際には、後方にその存在を知らせる光が必要だが、電気機員等が未発達な当時光源として使われたのが灯油を燃やすカンテラだった。そして、引火性の強いこの油類を保管するための危険物倉庫として建てられたのが赤煉瓦倉庫だった。「ランプ小屋」と呼ばれて長く親しまれてきた。このランプ小屋に積まれている煉瓦をよく見ると多くの煉瓦に、「平」とか、「一」、「八」という刻印がきざまれている。これは、煉瓦を作った職人の名前の一部だそうです。

敦賀観光協会

## ワークショップ

- での意見
- ・ソフト提案
  - ・ランプ小屋の文化財化
  - ・観光振興への寄与
  - ・ライトアップ
  - ・ランプ小屋を往時の姿に復元(当時に想いを巡らすことのできるような外観や内部に)
- 昭和50年頃のランプ小屋



## 活用方策案

### A案 窓から中を見れるようにする



- ・外から内部の様子を見ることができるようになる
- ・鉄道遺産の展示



JR奈良線 稻荷駅のランプ小屋

### B案 外観の景観整備、ライトアップ

JR磐越西線馬下(うまおろし)駅のランプ小屋  
 駅開業100周年に合わせて入口を改修整備



ライトアップイメージ  
 手づくりの灯りイベントと相性が良さそう

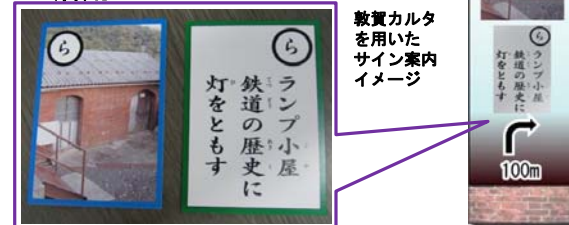


### C案 「ランプ」にちなんだ観光施策

Ex) ランプ小屋の呼び名に因み夜のイベント時の手持ちランプの配布場所として活用



その他 敦賀カルタを用いた案内サインへの活用



敦賀カルタを用いた案内サインイメージ

# 既存ストック活用方策 ～休止中の線路と旧駅～

## 休止中の線路（JR貨物様所有）



## ワークショップでの意見

### ○回遊性

- ・歩行者動線の整備
- ・敦賀港駅の活用

### ○鉄路の活用

- ・敦賀港線の保全、活用
- ・欧亜国際列車の運行
- ・SLを走らせる(200～300mでも)
- ・本町第3公園のSLの移設
- ・乗っては遊べる列車が欲しい
- ・鉄っちゃんゾーン

### ○ソフト

- ・人カトロッコ・レールサイクル
- ・線路のウォーキング
- ・本町第3公園のSL移設を市民で引っ張るイベント
- ・130周年イベントアイデアを子供たちから提案
- ・子供たちを巻き込む。親、祖父母もくる。
- ・敦賀祭り等イベントとの連携

### ○貨物置場の活用、施設整備

- ・レトロな町並み、レトロな商店街
- ・ホテル(客車、鉄道、迎賓館、外国人対応)
- ・ジオラマ展示、ジオラマカフェ
- ・999テーマ館、999関連整備
- ・旧敦賀港駅舎移設
- ・レトロな風呂屋
- ・税関検査所
- ・大和田商店
- ・鉄道コンテナの撤去
- ・観光バス駐車場
- ・欧亜国際列車など鉄道の歴史、物語り
- ・イメージパースを展示
- ・市民は食べ物情報には敏感
- ・外国人対応、おもてなし

## 歴史のおさらい

明治15年(1882)	洞口道一金ヶ崎間(現敦賀港)鉄道開通 金ヶ崎突堤が竣工
明治17年(1884)	敦賀線長浜一金ヶ崎間が全通開業
明治32年(1899)	敦賀港が開港場(外国貿易港)に指定
明治45年(1912)	敦賀港線ルート変更完成 新橋一金ヶ崎間にウラジオストック航路と直結する欧亜国際列車を週3回運行
大正8年(1919)	金ヶ崎駅を敦賀港駅と改称
大正9年(1920)	敦賀鉄道棧橋完成
大正13年(1924)	東京-敦賀港間欧亜国際連絡列車廃止
昭和2年(1927)	東京-敦賀港館に欧亜国際連絡列車を週一回復活
昭和9年(1934)	東京-敦賀港間に北鮮雄基航路連絡列車を新設
昭和15年(1940)	ユダヤ人難民がシベリア鉄道を経て敦賀に上陸 欧亜国際連絡列車廃止
昭和62年(1987)	敦賀-敦賀港間旅客営業廃止 国鉄民営化
平成11年(1989)	敦賀港開港百周年記念「きらめきみなと博」開催
平成21年(2009)	敦賀港線休止

## 活用方策案

### A案 人カトロッコ

エコモビリティ繋がりで既存のペロタクシーと親和性あり



### B案 ウォーキング、駅舎内見学



線路だけでなく信号機や切り替えポイントも残っており、愛好家にとって見どころが多い  
オフレールステーションとして残る敦賀港駅内の活用も望まれる

# ソフト施策との連携 ～今までのイベントとWS意見などの新たな取り組み～

## サマーフェスティバル

～千人千灯～



～敦賀カルタ～



## 敦賀きらめきみなと博 (1999年)



敦賀港開港100周年記念事業。日本丸等の寄港、SLの運行、東京から欧亜国際連絡列車を再現した他、敦賀港の大ジオラマや模型パネルなどもされた。また、ふるさと物産フェア、環日本海諸国の料理が楽しめるレストラン、コンサートや大道芸等のイベントも多数開催された。

## 愛着を深める仕掛けづくり

- ・子供たちの手形を入れた広場づくり  
敦賀の子供たちが生まれ育った軌跡を、敦賀の港の歴史と共に後世に残します。
- ・人道の物語の「りんご」の木の植樹  
りんごのエピソードにちなんで、おもてなしの心を守り伝えていくための植樹のイベントなど。
- ・ユダヤ人が上陸した箇所や線路跡などを道路上にポイント明示  
来訪者がその場に立ったら、敦賀の歴史や物語を想像させる何気ない仕掛け。
- ・SLに関連させたイベント  
本町第3公園にあるC58を市民で綺麗にするイベントや市民の募金による移設等のイベント仕掛けなど。



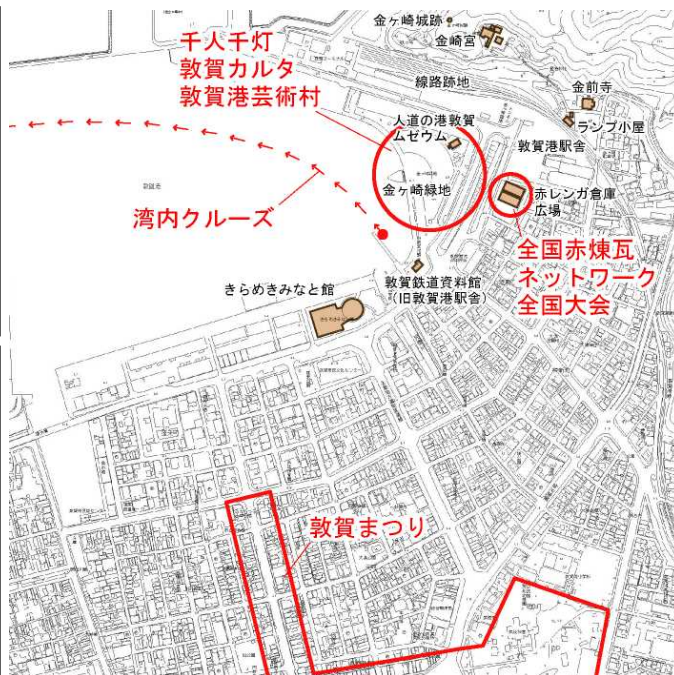
## 芸術村構想とのタイアップ

- ・敦賀港芸術村構想で提案されている内容
- ・「ギネスに挑戦！」などの名物イベント・コンテストの開催
- ・空き店舗での体験の場づくり
- ・敦賀短期大学や市内高校・中学校などの音楽ライブ、楽器体験イベント、市民参加のカラオケ大会
- ・芸術・文化活動に関する情報発信、PR



## 敦賀祭りなどのイベントとの連携

- ・敦賀市最大のイベントであり、敦賀駅から金ヶ崎周辺への動線と重なることから積極的な連携が期待できます



## 全国赤煉瓦ネットワーク 全国大会との連携



- ・全国大会に合わせたイベントの実施を通じて、金ヶ崎周辺整備構想の市民への周知、もてなし意識の醸成を図る

## 湾内クルーズ

- ・体験見学や民間会社とのタイアップによるクルーズ実施



一過性のものでなく継続的に取り組めるソフト施策が必要です



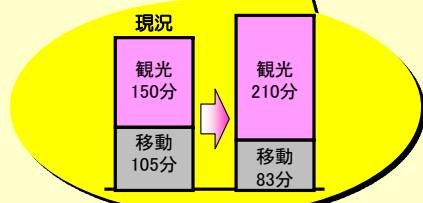
# 回遊性を高める方策(案)

できることから着手して金ヶ崎周辺への愛着と誇りを醸成しながら足を運ぶ人を増やすことにより、飲食機能の導入等、次の段階へとステップアップ！

●市民が楽しめるプログラムと周回コースの実現等による回遊性の向上、滞在時間の延長

○赤レンガ倉庫横の広場や金ヶ崎緑地での手づくりイベントの実施、ランプ小屋や休止中の線路での魅力づくりなどを実施することによって、金ヶ崎周辺での観光滞在時間が伸びます。

⇒コース(8ヶ所)を巡るとすると観光に約3時間半、施設間の移動に約83分(2.55km)要します。



①	金ヶ崎緑地 (50分)	0m	0分
②	人道の港教賀 ムゼウム (30分)	300m	6分
③	赤レンガ倉庫 (30分)	400m	8分
④	ランプ小屋 休止中の線路 現教賀港駅舎 金前寺 (30分)	250m	5分
⑤	金崎宮 (20分)	500m	30分
⑥	金ヶ崎城跡 (10分)	900m	30分
⑦	教賀鉄道資料館 (旧教賀港駅舎) (30分)	200m	4分
⑧	きらめきみなと館 (10分)		

既存ストックを活かしたイベントの実施などによる滞在時間の延長

現況と比べて移動距離が650m、時間にして22分の短縮。周回ルートとなるため、散策中も風景が変わっていく楽しさがある。



# まちづくりの段階的ステップアップ

全体スケジュール（案）

	平成22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28～32年度	33年度～
区分	短期						中期	長期
イベント	市民ワークショップ	★ 2月 定期航路110周年 ★ 3月 鉄道開通130周年	★ 6月 欧亜国際連絡列車100周年		◆ H26年度 舞鶴若狭自動車道全面開通	◆ H26年度末 長野～金沢間北陸新幹線開通		

短期での取り組み

中期

長期

すぐにでもできることから始めて大きく育てましょう！

- 最初からハードルの高い事業に挑み、なかなか成果が上がらない（目に見えない）よりも、**すぐにでも着手できることから、市民に見える成果を着実に重ね、段階的に発展させていくことが重要**
- 中長期の目標ビジョンを共有しながら、**実現可能な短期的な目標を設定し、市民と行政が協働して実現に取り組むことが重要**

目に見える成果は市民の共感などの反応、新しい仲間を増やし、取組が発展していきます！

さらにノウハウやネットワークが蓄積され、より大きな事業に着手することが可能になります！

インフラ整備や民間投資による施設整備も含め総合的なまちづくりの実現！

小さくてもすぐにでも始められるまちづくり活動

市民の金ヶ崎周辺に対する誇り、意識の醸成

すぐにでもできること、小さくても成果が確実に目に見えることから始めましょう！

認知度が高まりまちづくりがより大きく発展！

市民を中心に金ヶ崎周辺に足を運ぶ人が増えれば、...

県外からの観光客が増えれば、...

# 次回委員会での主な内容

- ①オープンスペースの有効活用イメージの検討
- ②にぎわい施設の検討

- ③各施設や資源をつなぐ方策の検討

